



2022年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年11月9日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 タカラトミー

コード番号 7867 URL www.takaratomy.co.jp

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小島 一洋

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員連結管理本部長 (氏名) 伊藤 豪史郎 TEL 03-5654-1548

四半期報告書提出予定日 2021年11月10日 配当支払開始予定日 2021年12月10日

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第2四半期の連結業績 (2021年4月1日～2021年9月30日)

(1) 連結経営成績 (累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第2四半期	77,014	21.9	5,935	222.6	5,941	266.2	5,248	916.4
2021年3月期第2四半期	63,157	△24.0	1,839	△68.4	1,622	△69.9	516	△87.7

(注) 包括利益2022年3月期第2四半期 5,550百万円 (－%) 2021年3月期第2四半期 △532百万円 (－%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第2四半期	56.31	56.28
2021年3月期第2四半期	5.48	5.48

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年3月期第2四半期	153,971	73,380	47.4	788.73
2021年3月期	147,614	69,928	47.1	742.45

(参考) 自己資本 2022年3月期第2四半期 72,946百万円 2021年3月期 69,534百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	7.50	—	10.00	17.50
2022年3月期	—	10.00	—	—	—
2022年3月期 (予想)	—	—	—	10.00	20.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2022年3月期の連結業績予想 (2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	155,000	9.8	8,000	13.0	7,600	6.0	6,500	20.9	69.52

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料12ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(注) 詳細は、添付資料12ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

2022年3月期2Q	96,290,850株	2021年3月期	96,290,850株
2022年3月期2Q	3,805,014株	2021年3月期	2,634,292株
2022年3月期2Q	93,201,229株	2021年3月期2Q	94,261,187株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

今後の見通しにつきましては、6ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

機関投資家・アナリスト向けの決算説明会につきましては、2021年11月9日にオンラインにて実施する予定です。また、同決算説明会資料につきましては、同日に当社ウェブサイトに掲載の予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	6
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	6
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	9
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	10
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	11
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	12
(会計方針の変更)	12
(追加情報)	13
(四半期連結損益計算書関係)	13
(セグメント情報)	14

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

(2022年3月期第2四半期連結累計期間におけるハイライト)

(新型コロナウイルス感染症の影響などについて)

4月に発出された緊急事態宣言は地域の拡大と宣言期間の度重なる延長により、その影響が長期化したしました。映画の公開時期の変更や各種イベントの中止・延期及び縮小は続いており、当社グループでは、「キデイランド」「トミカ・プラレールショップ」など小売事業、「トミカ博・プラレール博」などイベント事業が影響を受けました。

なお、当社グループでは感染拡大の防止を進めるに当たり、従業員の外出や出社の大幅な抑制を図るためテレワークを継続するとともに、外部との会食の禁止、海外・国内出張の原則禁止などの対策を引き続き実施いたしました。

(連結業績について)

・売上高

「トミカ」では、警察署の建物がボタン一つで自動変形する「ぐるっと変形!DX ポリスステーション」が人気を博すとともに、「プラレール」においては、4月からテレビアニメシリーズ第2弾の放送が開始した『新幹線変形ロボ シンカリオンZ』の関連玩具を展開いたしました。「リカちゃん」ではドール、「もくもく ジュージュウ にぎやかバーベキュー」などが人気を集めました。トレーディングカードゲーム「デュエル・マスターズ」は、発売20周年に向けて販売した商品が好調に推移し、「ポケットモンスター」では、「モンコレ」をはじめとした関連商品が堅調に推移するとともに、アミューズメントマシン「ポケモンメザスタ」の人气が拡大しました。「トランスフォーマー」においては、海外向け輸出が北米及び欧州等で伸長いたしました。また、7月に発売した液晶画面の中のキャラクターと直接触れ合っているかのように遊べる新触感液晶玩具「ぶにるんず」が人気を集め、販売が伸長いたしました。

小売事業、イベント事業においては外出自粛傾向による影響が長期化しているものの、前年同期と比較すると、制限を受けながらも玩具出荷の伸長が見られたことにより、売上高は、77,014百万円（前年同期比21.9%増）となりました。なお、昨年10月に米国の独立系玩具会社ファット・ブレイン・グループがTOMY International, Inc.の子会社となり、連結業績に加わっています。

・利益面

売上高が好調に推移するとともに、プロダクトミックスの改善などにより売上総利益が伸長しました。また、新型コロナウイルスの拡大状況と店頭状況を踏まえ経費コントロールを進めたことにより、営業利益は5,935百万円（前年同期比222.6%増）、経常利益は5,941百万円（前年同期比266.2%増）となりました。また、経営資源の機動的、効率的活用及び財務体質の強化を図るため保有資産の見直しを行い、当社連結子会社であるTOMY (Hong Kong) Ltd. が所有する固定資産の事務所用不動産を譲渡し、第1四半期においてその譲渡益として特別利益1,884百万円を計上したこともあり、親会社株主に帰属する四半期純利益は5,248百万円（前年同期比916.4%増）となりました。

(経営成績の概況)
 <セグメント別業績の概況>

(単位：百万円)

	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	増減	増減率(%)
売上高	63,157	77,014	13,856	21.9
日本	53,425	63,510	10,085	18.9
アメリカズ	8,829	11,419	2,590	29.3
欧州	2,516	2,933	416	16.6
オセアニア	909	1,146	236	26.0
アジア	22,274	24,201	1,926	8.6
消去又は全社	△24,797	△26,196	△1,398	—
営業利益又は営業損失(△)	1,839	5,935	4,095	222.6
日本	2,795	6,898	4,103	146.8
アメリカズ	△57	△27	30	—
欧州	42	118	75	177.3
オセアニア	62	102	39	63.7
アジア	524	610	86	16.5
消去又は全社	△1,527	△1,767	△240	—

<日本>

(単位：百万円)

	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	増減
売上高	53,425	63,510	10,085
営業利益	2,795	6,898	4,103

4月に発出された緊急事態宣言は地域の拡大と宣言期間の度重なる延長により、その影響が長期化したしました。映画の公開時期の変更や各種イベントの中止・延期及び縮小は続いており、当社グループでは、「キデイランド」「トミカ・プラレールショップ」など小売事業、「トミカ博・プラレール博」などイベント事業が影響を受けました。

「トミカ」では、様々なサウンド・ボイスと警察署の建物がボタン一つで自動変形する「ぐるっと変形！DXポリスステーション」が人気を博すとともに、デジタルとアナログを融合させた新商品「トミカスピードウェイ実況サウンド！デジタルアクセルサーキット」等を発売いたしました。「プラレール」においては、4月からテレビアニメシリーズ第2弾の放送が開始した『新幹線変形ロボ シンカリオンZ』の関連玩具を展開し販売が伸びました。また、「リカちゃん」では「ゆめいろリカちゃん カラフルチェンジ」などのドールや、「もくもくジュージュー にぎやかバーベキュー」が人気を集めました。さらに、『鬼滅の刃』とコラボレーションした「リカちゃん」「トミカ」「プラレール」「ガチャ」など様々な商品を発売するとともに、10月に発売する「鬼滅の刃 人生ゲーム」などの予約も好評を博しました。

トレーディングカードゲーム「デュエル・マスターズ」では、発売20周年に向けて希少性の高いカードを収録しコレクション性を高めた商品が好調に推移するとともに、遊び方やルールが学べるスマートフォン向けアプリ版及びNintendo Switch版ソフト「デュエマであそぼう！」を配信し、新規ユーザーの獲得を積極的に進めました。また、4月からスクラッチ印刷や感温印刷を施したギミック搭載のカードバトルシリーズ「マジカパーティー」の玩具展開とテレビアニメをスタートいたしました。「バイブレードバースト」は、国内における新商品「ダイナマイトバトルレイヤー」シリーズが好調に推移いたしましたが、海外向け輸出については北米向けの輸出に落ち着きが見られました。「トランスフォーマー」においては、海外向け輸出が北米及び欧州等で好調に推移いたしました。「ポケットモンスター」では、「モンコレ」をはじめとした関連商品が堅調に推移するとともに、2020年9月から展開しているアミューズメントマシン「ポケモンメザスタ」の人気が大きく拡大しました。放送3年目に突入したテレビアニメ『パウ・パトロール』は、YouTubeや配信サービスに加え、8月に映画が公開されたこともあり、関連商品の販売が好調に推移しました。7月に発売した液晶画面の中のキャラクターと直接触れ合っているかのように遊べる新触感液晶玩具「ぶにるんず」が人気を集め、販売が伸びました。さらに、外出自粛によりボードゲーム「人生ゲーム」やパーティーゲーム「黒ひげ危機一発」など家の中で楽しめるファミリーゲームの販売が引き続き人気を博しました。

また、新規事業領域拡大を図るため、ティーンから大人をターゲットとしたネイルチップ専用プリント機「ネルチップ」を引き続き展開するとともに、顔認識機能搭載のシニア向けコミュニケーション人形「うちのあまえんぼあみちゃん」を発売いたしました。タカラトミーアーツが展開するガチャ事業では、市場でのガチャ人気の高まりの中人気コンテンツを使った関連商品が好評を博すとともに、大型ガチャ売場の設置拡大により売上が伸びました。

以上の結果、売上高は前年同期と比較すると、制限を受けながらも玩具出荷が伸びし63,510百万円（前年同期比18.9%増）、営業利益は6,898百万円（同146.8%増）になりました。

<アメリカズ>

(単位：百万円)

	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	増減
売上高	8,829	11,419	2,590
営業損失(△)	△57	△27	30

新型コロナウイルスのワクチン接種普及により感染対策の諸規制が緩和され、商業施設の営業が再開されたことなどもあり、外出を伴うサービスに対する消費が高まるとともに、巣ごもり需要やeコマース購買に落ち着きが見られました。そのような中、コンテナ不足に伴う棚卸在庫不足が影響しベビー用品や農耕車両玩具の出荷が減少したものの、ベビー向け食器やぬいぐるみ「もっちゃんもっちゃん、海外商品名：Club Mocchi- Mocchi-」など店頭にお

ける販売が伸長し、また昨年10月にファット・ブレイン・グループがTOMY International, Inc.の子会社となったことも貢献し、売上高は11,419百万円（前年同期比29.3%増）、営業損失はコンテナ不足による物流費高騰の影響もあり27百万円（前年同期営業損失57百万円）となりました。

<欧州>

（単位：百万円）

	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	増減
売上高	2,516	2,933	416
営業利益	42	118	75

新型コロナウイルスのワクチン接種の浸透、ロックダウンの緩和に伴い人流が回復傾向となりました。それによりeコマースに落ち着きが見られる一方で、店頭における「BRITAINS」などの農耕車両玩具の販売が伸長いたしました。

また、「Toomies」のバストイなど乳幼児向け商品が堅調に推移するとともに、ボードゲーム・アクションゲーム「Drumond Parkブランド商品」、プリスクール向けゲーム商品の販売が伸長したことにより、売上高は2,933百万円（前年同期比16.6%増）、営業利益は118百万円（同177.3%増）となりました。

<オセアニア>

（単位：百万円）

	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	増減
売上高	909	1,146	236
営業利益	62	102	39

新型コロナウイルス感染拡大により行われたロックダウンの外出制限は一部地域にて2021年度以降も実施されました。乗用農耕車両玩具が好評を博すとともに、テレビアニメ『Ricky Zoom』関連商品の販売が伸長しました。またインファント・プリスクール商品においてはチャイルドシートや幼児向け食器を中心に堅調に推移し、売上高は1,146百万円（前年同期比26.0%増）、営業利益は102百万円（同63.7%増）となりました。

<アジア>

（単位：百万円）

	2021年3月期 第2四半期	2022年3月期 第2四半期	増減
売上高	22,274	24,201	1,926
営業利益	524	610	86

2021年春以降も国や地域により外出制限が実施されるなど、購買動向に大きな影響をもたらしました。

韓国、香港などで新シリーズを展開した「ベイブレードバースト」、トミカ単品やトミカワールドなどが好調に推移し、売上高は24,201百万円（前年同期比8.6%増）、営業利益は610百万円（同16.5%増）となりました。

（2）財政状態に関する説明

〔資産、負債及び純資産の状況〕

＜資産＞

流動資産は、前連結会計年度末に比較して6,798百万円増加し、108,677百万円となりました。これは主として、受取手形及び売掛金、商品及び製品が増加したことによるものです。

固定資産は、前連結会計年度末に比較して441百万円減少し、45,293百万円となりました。これは主として、無形固定資産、有形固定資産が減少したことによるものです。

＜負債＞

流動負債は、前連結会計年度末に比較して7,425百万円増加し、49,721百万円となりました。これは主として、支払手形及び買掛金、未払金、未払費用、短期借入金が増加したことによるものです。

固定負債は、前連結会計年度末に比較して4,520百万円減少し、30,869百万円となりました。これは主として、長期借入金が増加したことによるものです。

＜純資産＞

純資産は、前連結会計年度末に比較して3,452百万円増加し、73,380百万円となりました。これは主として、自己株式の取得があった一方で、利益剰余金が増加したことによるものです。

〔キャッシュ・フローの状況〕

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」）は、前連結会計年度末に比較して3,695百万円減少し、59,852百万円となりました。

＜営業活動によるキャッシュ・フロー＞

営業活動によるキャッシュ・フローは、2,153百万円の収入（前年同四半期は644百万円の収入）となりました。これは主として、売上債権の増加6,057百万円、棚卸資産の増加4,580百万円等があった一方で、税金等調整前四半期純利益7,421百万円、仕入債務の増加3,254百万円、減価償却費2,858百万円等があったことによるものです。

＜投資活動によるキャッシュ・フロー＞

投資活動によるキャッシュ・フローは、68百万円の支出（前年同四半期は3,120百万円の支出）となりました。これは主として、有形固定資産の売却による収入1,702百万円等があった一方で、有形固定資産の取得による支出1,104百万円、無形固定資産の取得による支出753百万円等があったことによるものです。

＜財務活動によるキャッシュ・フロー＞

財務活動によるキャッシュ・フローは、5,853百万円の支出（前年同四半期は12,585百万円の収入）となりました。これは主として、短期借入金の増加866百万円等があった一方で、長期借入金の返済による支出3,663百万円、ファイナンス・リース債務の返済による支出1,400百万円、自己株式の取得による支出1,202百万円等があったことによるものです。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、2021年8月12日公表のとおりであり、変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	63,656	59,964
受取手形及び売掛金	18,170	24,237
商品及び製品	13,163	17,707
仕掛品	624	566
原材料及び貯蔵品	903	1,020
その他	5,545	5,333
貸倒引当金	△185	△151
流動資産合計	101,879	108,677
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	12,944	13,004
減価償却累計額	△8,693	△8,759
減損損失累計額	△441	△624
建物及び構築物 (純額)	3,810	3,619
機械装置及び運搬具	2,606	2,652
減価償却累計額	△2,116	△2,158
減損損失累計額	△31	△31
機械装置及び運搬具 (純額)	458	462
工具、器具及び備品	23,525	23,915
減価償却累計額	△21,622	△22,061
減損損失累計額	△822	△834
工具、器具及び備品 (純額)	1,080	1,019
土地	3,902	3,895
リース資産	8,780	7,684
減価償却累計額	△3,972	△3,097
減損損失累計額	△339	△336
リース資産 (純額)	4,467	4,249
建設仮勘定	534	784
有形固定資産合計	14,254	14,031
無形固定資産		
のれん	15,902	15,386
その他	9,455	9,354
無形固定資産合計	25,357	24,740
投資その他の資産		
投資有価証券	2,592	2,667
繰延税金資産	1,267	1,495
その他	2,290	2,435
貸倒引当金	△27	△77
投資その他の資産合計	6,122	6,521
固定資産合計	45,734	45,293
資産合計	147,614	153,971

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,151	11,462
短期借入金	6,833	7,623
1年内返済予定の長期借入金	8,064	8,771
リース債務	2,332	2,425
未払金	6,155	7,499
未払費用	6,973	7,793
未払法人税等	1,129	1,847
引当金	319	367
その他	2,336	1,930
流動負債合計	42,295	49,721
固定負債		
長期借入金	27,465	23,107
リース債務	1,549	1,541
繰延税金負債	252	348
再評価に係る繰延税金負債	472	472
引当金	223	230
退職給付に係る負債	2,517	2,520
その他	2,909	2,649
固定負債合計	35,390	30,869
負債合計	77,686	80,591
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,459	3,459
資本剰余金	9,211	9,211
利益剰余金	48,226	52,538
自己株式	△2,307	△3,510
株主資本合計	58,590	61,698
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	828	896
繰延ヘッジ損益	605	406
土地再評価差額金	624	624
為替換算調整勘定	9,275	9,698
退職給付に係る調整累計額	△388	△378
その他の包括利益累計額合計	10,944	11,247
新株予約権	393	434
純資産合計	69,928	73,380
負債純資産合計	147,614	153,971

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
売上高	63,157	77,014
売上原価	39,568	45,967
売上総利益	23,589	31,046
販売費及び一般管理費	21,749	25,111
営業利益	1,839	5,935
営業外収益		
受取利息及び配当金	39	30
受取賃貸料	71	75
その他	86	164
営業外収益合計	196	270
営業外費用		
支払利息	116	176
為替差損	186	35
その他	111	52
営業外費用合計	414	264
経常利益	1,622	5,941
特別利益		
固定資産売却益	19	1,887
雇用調整助成金等	110	38
その他	—	0
特別利益合計	129	1,926
特別損失		
固定資産除却損	5	0
減損損失	1	211
新型コロナウイルス感染症による損失	677	214
その他	140	20
特別損失合計	824	446
税金等調整前四半期純利益	927	7,421
法人税等	448	2,172
四半期純利益	478	5,248
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△37	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	516	5,248

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
四半期純利益	478	5,248
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	169	68
繰延ヘッジ損益	△255	△199
為替換算調整勘定	△985	422
退職給付に係る調整額	59	10
その他の包括利益合計	△1,011	302
四半期包括利益	△532	5,550
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△496	5,550
非支配株主に係る四半期包括利益	△36	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	927	7,421
減価償却費	2,826	2,858
固定資産除却損	5	0
減損損失	1	211
のれん償却額	654	764
雇用調整助成金等	△110	△38
新型コロナウイルス感染症による損失	677	214
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	7	15
引当金の増減額 (△は減少)	27	65
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	114	27
受取利息及び受取配当金	△39	△30
支払利息	116	176
為替差損益 (△は益)	△164	112
固定資産売却損益 (△は益)	△19	△1,887
売上債権の増減額 (△は増加)	△3,576	△6,057
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△1,991	△4,580
前払費用の増減額 (△は増加)	△91	△276
仕入債務の増減額 (△は減少)	401	3,254
未払金の増減額 (△は減少)	△552	1,119
未払費用の増減額 (△は減少)	864	810
その他	1,410	△368
小計	1,492	3,811
利息及び配当金の受取額	37	26
利息の支払額	△106	△176
雇用調整助成金等の受取額	110	38
新型コロナウイルス感染症による損失の支払額	△458	△146
法人税等の支払額	△431	△1,400
営業活動によるキャッシュ・フロー	644	2,153
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△2,460	△1,104
有形固定資産の売却による収入	13	1,702
無形固定資産の取得による支出	△652	△753
その他	△19	87
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,120	△68
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	3,922	866
長期借入れによる収入	14,000	—
長期借入金の返済による支出	△2,650	△3,663
配当金の支払額	△1,418	△937
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△1,476	△1,400
自己株式の処分による収入	0	—
自己株式の取得による支出	△549	△1,202
セール・アンド・リースバックによる収入	129	565
債権流動化による収入	700	—
その他	△71	△81
財務活動によるキャッシュ・フロー	12,585	△5,853
現金及び現金同等物に係る換算差額	△109	72
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	9,999	△3,695
現金及び現金同等物の期首残高	46,904	63,548
現金及び現金同等物の四半期末残高	56,904	59,852

（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）

（税金費用の計算）

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

（会計方針の変更）

（収益認識に関する会計基準等の適用）

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

収益認識会計基準等の適用により、消化仕入に係る収益について、従来は、顧客から受け取る対価の総額で収益を認識しておりましたが、顧客への財又はサービスの提供における役割（本人又は代理人）を判断した結果、総額から仕入先に対する支払額を差し引いた純額で収益を認識する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高が350百万円、売上原価が350百万円それぞれ減少しておりますが、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に影響はありません。また、利益剰余金の当期首残高に変更はありません。

なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

（時価の算定に関する会計基準等の適用）

「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 2019年7月4日）第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

（追加情報）

（会計上の見積りを行う上での新型コロナウイルス感染症の影響に関する仮定）

日本では再度の緊急事態宣言が発令される等、新型コロナウイルス感染症の収束時期等を正確に予測することは困難な状況にあります。

当社グループは、新型コロナウイルス感染症の影響が、前連結会計年度末の状況から悪化しないとの前提で、繰延税金資産の回収可能性、のれん、商標利用権及びその他無形固定資産の評価等の会計上の見積りを行っております。

なお、当該会計上の見積りの仮定については前連結会計年度から重要な変更はありません。

（四半期連結損益計算書関係）

新型コロナウイルス感染症による損失

前第2四半期連結累計期間において、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、2020年4月7日の日本政府による緊急事態宣言を受け臨時休業を実施した小売店等で発生した固定費（人件費・減価償却費）等を計上しております。

当第2四半期連結累計期間において、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、日本政府による緊急事態宣言等を受け臨時休業及び時短営業を実施した小売店等で発生した固定費（人件費・減価償却費）等を計上しております。

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	日本	アメリカズ	欧州	オセアニア	アジア	合計
売上高						
外部顧客への売上高	47,578	8,808	2,513	901	3,355	63,157
セグメント間の内部売上高 又は振替高	5,846	20	3	8	18,918	24,797
計	53,425	8,829	2,516	909	22,274	87,955
セグメント利益又は損失(△)	2,795	△57	42	62	524	3,367

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	3,367
セグメント間取引消去	△52
全社費用(注)	△1,475
四半期連結損益計算書の営業利益	1,839

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 地域に関する情報

(単位:百万円)

	日本	北米		その他	合計
			内 アメリカ		
売上高	38,975	14,164	13,146	10,017	63,157

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国または地域に分類しています。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	日本	アメリカズ	欧州	オセアニア	アジア	合計
売上高						
外部顧客への売上高	57,439	11,179	2,929	1,146	4,319	77,014
セグメント間の内部売上高 又は振替高	6,070	240	3	—	19,881	26,196
計	63,510	11,419	2,933	1,146	24,201	103,210
セグメント利益又は損失(△)	6,898	△27	118	102	610	7,702

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	7,702
セグメント間取引消去	△153
全社費用(注)	△1,613
四半期連結損益計算書の営業利益	5,935

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 地域に関する情報

(単位:百万円)

	日本	北米		その他	合計
			内 アメリカ		
売上高	47,217	17,423	16,616	12,373	77,014

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国または地域に分類しています。